

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 総合政策研究科 |
| 大項目 | 9 教育研究等環境 (研究科) |
| 中項目 | |
| 小項目 | 9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 |
| 要素 | 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保 |

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|---|---------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 建築士コース等のカリキュラム上必要となる実習環境を整備する | →機器・備品の購入数 | A | A | A | | |
| 2. 共同研究室の院生利用マニュアルを策定するとともに、利用者の満足度を向上させる | →マニュアル策定の有無、アンケート調査による満足度 | D | D | C | | |
| 3. 教員に対して外部資金導入を奨励する | →外部資金の獲得件数 | B | B | B | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|---|
| 目標1 | 総合政策研究科では、大学院生の研究活動推進のため、博士課程前期課程と同後期課程にそれぞれ共同研究室を設け、PC、プリンタ、コピー機等を適宜配置している。2011年に行ったカリキュラム改正では、さらに建築士コースのカリキュラムに必要な実習環境、機器・備品類の整備を計画していたが、すでに完了している。 |
| 目標2 | 大学院生あるいは教員との共同研究を活性化するため、大学院共同研究室の設備を順次改善するとともに、共同利用研究室を使ってポリシー・ワークショップ/ドーナツアワーの開催を制度化することで、大学院での教育研究活動の活性化を図っている。また、院生利用マニュアルの整備を進めている。 |
| 目標3 | リサーチ・コンソーシアムやリサーチ・フェアでの研究成果の発表を活性化させ、学外との共同研究を促進することで、大学院生による外部資金の獲得をめざしている。 |
| 備考 | 外部資金の獲得努力(申請率)ならびに獲得実績(採択率)において、総合政策研究科は必ずしも満足できる状況にない。今後も改善の努力が必要である。 |